全国協議会ニュース

発行所
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒130 東京都墨田区東駒形1-16-7
第1ホートクプラザ303号
TEL.(03)3625-7307
発行責任者
渡辺孝一

✙郵便振替口座✙
00150-4-15754
✙銀行口座✙
さくら銀行 新宿支店
普通 5666655

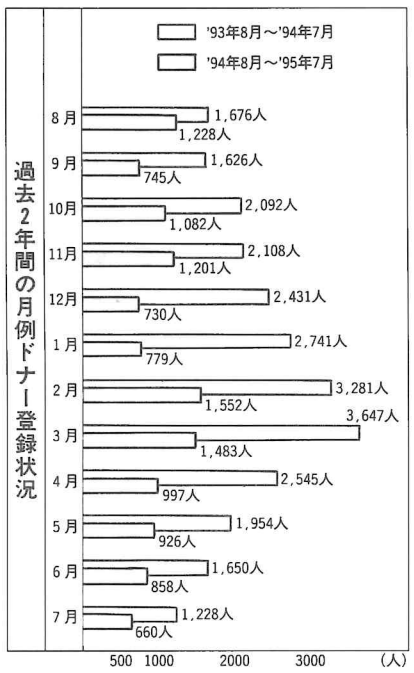
低迷するドナー登録

～打開への一層の奮起を～

ドナー登録が低迷を続けています。左のグラフはこの二年間の登録状況ですが、一昨年に比べ半分以下になっています。まだ適合するドナーがおられない多くの患者さんのことを考えると心が痛みます。

先の運営委員会で陽田委員長は、関係機関と力を合わせ、創意性を発揮した宣伝活動等にボランティア団体の一層の奮起を訴え、ブロック別の全国セミナーの場でも重要な課題にして欲しい、と呼びかけました。

財団が目標に設定した「五年間で十万人の登録」にも、遠く及ばないことも予想されます。この間登録されたドナーの動機などの詳細な分析と、有効な宣伝方法について突っ込んだ検討が財団に求められていると言えます。



厚生省概算要求は対前年比マイナス！

このほど来年度政府予算に対する厚生省概算要求の内容が明らかになりました。骨髄移植対策の総要求額は五億八三三一万円で対前年度予算額に比べ八八五〇万円（十七・九％）増であるとしています。

内容的には、特に新しいものは目立ちませんが、ここでは比較数字のトリックに注目しなければなりません。政府予算は各省庁の概算要求をもとに大蔵原案が作られ、復活折衝などを経て政府案となり、国会審議によって成立します。

過去三年ほどの骨髄移植対策の予算額の流れは別表の通りですが、何と厚生省の概算要求額で見る限り、対前年要求額ではマイナスになっています。

月間三十例ほどのペースで進んでいる骨髄バンクを介した骨髄移植に対する厚生省の姿勢が極めて消極的だと受け取らざるを得ない額です。今後、更に増大する骨髄移植に対し、もっと前向きの姿勢を概算要求で示してくれなかったことが残念です。

しかしながら、この要求額に対し、大蔵省は満額の回答を出して、来年度予算の編成に当って欲しいと思います。

骨髄移植対策予算の流れ（単位：千円）

平成5年度予算額	342,966
↓	
平成6年度予算額	424,067
↓	
平成7年度概算要求額	595,689
↓	
平成7年度予算額	494,811
↓	
平成8年度概算要求額	583,318
↓	
平成8年度予算額	？

あやちゃんの新テレカできました

「あやちゃんの贈り物展」が全国を巡回しています。開催地域から強い要望のあった「あやちゃんの絵のテレホンカードがあれば…」との声に応え、全国協議会では三瓶彩子ちゃんの絵『すの中のバナナ』を中央にあしらった新しいデザインのテレカを作りました。

このテレカとともにあやちゃんからのメッセージの入った特製封筒も作り一緒にお渡しできるようにしました。

五十度数で寄付金つき千円、加盟団体へは七百円でお分けします。

読売文化人ゴルフ 北陸チャリティー大会

第二回読売文壇ゴルフ大会が、前回と同じく骨髄バンクのチャリティーゴルフとして開催され、パーティーの席上、骨髄バンクの普及啓発に使って下さいと読売新聞社加藤副社長より海部会長にチャリティー収益金の目録が手渡されました。会場には富山の丸山会長と油野さんもかけつけてくれて海部会長や地元読売の記者との談話の一時もあり、また前の晩に行われました前夜祭には地元はとの会の越木ご夫妻も来て戴き、ボランティア談義の一時を過ごすことができました。

この大会には、他にも大きな収穫がありました。一つは地元の新聞にこの大会のことがカラー写真入りで大見出しで掲載された事。さらには参加された著名人の方々に理解を得られた事であり、中でも漫画家の藤子不二雄Ⓐさんは骨髄バンクのキャラクターを考えるからそれを使って子供たちにも理解をしてもらおうと、全面的な協力を約束して下さいました。また、洋画家の大津英敏さんや山野辺進さんも協力の約束をして戴き、なんとも実り多きこの大会でありました。（渡辺）

ブロック別ボランティアセミナー開催

全国協議会では例年八月に開催していた全国ボランティアセミナーを、今年はブロック別に開催することになりました。

十月十四・十五日には関東甲信越ブロックでの開催（長野県菅平高原）が予定されています。東海北陸近畿ブロックは未定ですが、すでに九月には北海道東北ブロックと中四国九州ブロックで開催されました。二ブロックからの報告です。

北海道・東北ブロック
「二つのテーマを四グループで自由討論」

九月二日～三日、秋田県横手市の温泉「ゆうゆうプラザ」に於いて、北海道・東北ブロックの骨髄バンクボランティアセミナーが行なわれました。

北海道・東北各地から約四十名の参加により無事終了することができました。

初日は、青年会議所東北地区協議会の主催により、大谷貴子さんの講演会が行なわれ、高校生や看護学生を中心に、多くの方に参加していただきました。

後援会終了後の街頭キャンペーンもJCの皆様と、各地から集まったボランティアの協力で、チラシの配布と募金活動が行なわれました。小雨模様の中、ご参加下さいました皆様、本当にご苦労様でした。

翌日は、秋田大学医学部小児科から渡辺新先生をお迎えし、「末梢血幹細胞移植について」と題しビデオを交えてお話していただきました。

その後グループ毎に分かれ、〝普及活動〟〝医療体制〟の今後について分科会で話し合いをし、活発な意見交換がされました。様々な意見の中で、地域に根ざした、地道な、しかも自分たちも楽しめる活動をしていきたいという考えが根本だと確認されました。

今後もこのような交流会を定期的に持つことにより、具体的な活動に結び付いていくのだと思います。思いがけず郷土自慢が始まったり、楽しく、有意義な一時を過ごせました。ありがとうございました。（秋田）

中国・四国・九州ブロック
「推進月間に向けドナー登録減少から脱出なるか」

昨年に引き続いての厳しい残暑も一段落し、台風の余波で強風の中、九月十六日(土)、十七日（日）の両日、北海道・東北ブロックに続き、中・四国・九州ブロックのボランティアセミナーが福岡市で開催されました。例年開催している九州各支部代表者会議も兼ね、他に山口、広島、愛媛、高知からもボランティアの方が総勢二十五名、講師として二名の病院の先生も参加して下さいました。

全国協議会からもテーマをいただいたように、現在のドナー登録の減少から必然的にこの問題が一番大きな議論となりました。もちろんドナー登録へ結びつく決定的な回答は仲々むずかしいと思いますが、麻酔事故や、ビデオ映像の中での骨髄採取の場面に対する恐怖心、ドナー休暇の取れない主に中小企業等への対応、テレビ番組での患者さんの悲しい結末などが登録に結びつかない要因ではないか？などの意見が出ました。そして、これからの行動として、十二月は骨髄バンク推進月間となっていますが、年に一日（六月位）だけでもマスメディアが大きく報道してくれるような行動を全国いっせいに展開してはどうか、そしてその日が骨髄バンクの日として定着していくように持って行けないだろうかという提案があり、九州地区からでも先鞭を切って何らかの行動を起こして見ようという事になりましたが…。

医療体制の充実では講師として招いた先生からのご意見で、主に看護婦さんのスタッフの増員で移植件数は増やせるのではないか、又、やはり移植センターなるものの実現が必要ではないかと指摘されていました。他にボランティアの絶対数の不足や各地区定例会のあり方等が話し合われ、無事二日間の日程を終了しました。（北村）

▣骨髄バンクの最新情報をお知らせする――骨髄バンクNOW

★骨髄提供確認の最終同意有効期限等について

中央調整委員会で骨髄提供者の最終同意後から採取までの期間について検討され、原則同意後6ヶ月までの内に採取日程調整及び移植を実施すること等が決まり、関係者に徹底することになりました。

また骨髄提供者の最終同意確認のための東京地区での弁護士立会制度は、9月より実施することになりました。

その他、中央調整委員会部会（移植部会、コーディネート部会、ドナーフォローアップ部会、国際協力小委員会等）で骨髄採取・移植を円滑に推進させるため、それぞれの課題を積極的に検討しています。

★バンクニュース（第7号）発刊について

11月初旬の発刊に向けて準備を進めています。

★「骨髄移植推進フォーラム」開催について

10月8日 14：30～17：30 東京医科大学臨床講堂本館6Fにて開催されます。

尚、同日東京都全域の主要駅でライオンズクラブによる、骨髄バンク支援キャンペーン募金が実施されます。

[8月末現在検査済ドナー登録者　66,786人]
[8月末現在患者登録者　3,326人]
[8月末現在移植件数　498件]
（8月末現在）

★骨髄バンクへのお問い合わせは★
フリーダイヤル0120-377-465

全国イベントカレンダー

〈10月〉
1日　運営委員会（東京）
4日　酒田市健康まつり（山形）
15日　トークショー　司会　桂 春之助　滋賀会館（滋賀）
18日　シンポジウム「ありがとう ふたつめの誕生日」各務原市中央公民館（岐阜）
20日　チャリティコンサート　大阪倶楽部ホール（大阪）
21日　アジア太平洋骨髄バンクシンポジウム in OSAKA 代表者会議（大阪）
22日　あやちゃんの贈り物展（石川）
10～30日　ボランティアセミナー　関東甲信越地区（長野）
14～15日
〈11月〉
5日　シンポジウム　愛媛県総合社会福祉会館（愛媛）
8日（浦和）
9日（新宿）
10日（松戸）
11日（いわき）　ピアノ三重奏のタベ（サンクト・フローリアン・ピアノ三重奏団）※9日・10日は昼の12時20分～13時、西新宿のモノリスー階アトリウムで
11～14日　あやちゃんの贈り物展（宮城）

――お問い合わせは事務局へ――

各地のたより

各地のたよりを写真を添えてお寄せ下さい。

岩手
県主催で二日間のシンポジウム

八月一・二日の両日、一関市と久慈市（ともに保健所登録を実施している）で県が主催のシンポジウムを大谷貴子さん・刀根麻里子さんをお招きして開催されました。岩手は四国と同じくらいの広さがあり昨年から今年はじめにかけ県内全保健所で

刀根麻里子さんとディスカッション出演者

埼玉
合宿交流会に30名が参加

埼玉連絡会恒例の合宿交流会が九月九、十日に加須市の青年の家で開かれ、のべ三十名が参加しました。

一日目は九月定例会。夕刻から恒例のバーベキューではボランティア同志の婚約発表もあって大いに盛り上がり、夜はインディアカーゲーム（写真）で汗を流しました。

二日目は、小児医療センターの花田先生の講演で学習を深め、正午に閉会しました。講演内容は――前日深夜までの交流会のため、頭が痛くてほとんど聞いていませんでした。誠に申し訳ありません。（笠原）

東京湾
鎌倉セミナー開催

九月九・十日の二日間、神奈川、東京、千葉の三団体合同のセミナーを開催しました。第一次研修は参加者二十八名、神奈川が取り組んでいる「告知」について患者さんや家族の方から思いのこもった話しが続きました。告知なくしてインフォームドコンセントはなく、そして十分に納得した治療もありえない。十一月十二日には「患者フォーラム告知について」を開催の予定で準備にはいっています。忙しい大谷さんがギリギリに間に合い乾杯、ビンゴゲームで盛り上がった夕食後はフリートークと十五夜の月が雲間に覗く由比ヶ浜の散歩を楽しんでいただきました。翌十日は円覚寺内寿徳庵に会場を移し、（斎藤和尚にはいつもお世話になることばかりです）参加者三十三名吉ヶ江弁護士はドナーフォローアップの話のなかで、ドナーの最終同意に弁護士の立ち会いを全国一律に実施するには地域的な弁護士の人数の偏りも有り難しいだろうとの事で、弁護士でなくても研修等を受けた第三者が立ち会う等の代案も挙げられた。関係者の検討を促したい。加藤先生からは、これからの骨髄移植の方向性として末梢血幹細胞移植や臍帯血を使った移植について医学的な解説をしていただいた。また、バンクにおいてもドナーの都合に合わせて骨髄採取を事前に行い冷凍保存して骨髄移植する事の検討もされつつあるようです。此れらの移植が今すぐにすべて現在の骨髄バンクを介

夜が更けても討論は……

「マサコマサオ」こと志賀正弘さんと婚約者の八木雅子さん

前号より始まった連載四コママンガ、作者のマサコマサオさんは本名・志賀正弘さんで三十歳になる患者さんです。ペンネームの「マサコマサオ」はこのマンガが婚約者の八木雅子さんとの共同製作であるためにつけられたものだそうです。ご本人からのメッセージです。

〈自己紹介〉…平成五年一月に急性骨髄性白血病を発病、平成七年四月に再発し、九月現在入院中です。

二回目に入院となる今回は、「ジタバタしても始まらぬ」と、趣味で始めた絵を描いていましたが、他の患者さん達のために何かできないかと考え、主治医である齋敏明先生を主人公に病棟内の出来事を四コママンガで描いてみたのがこの『Dr.サイくん』なんです。ちなみに「サイくん」は真面目で物静かな外見とは裏腹に、冗談を交えて懸命に患者さんを笑わそうとする心温かい先生なのであります。

ついつい形式的になりがちな院内での会話の中にサイくんのようなユーモアが入り込めれば、暗くなりがちな入院生活が少しでも余裕を持てるものに変わると信じています。この漫画を読み、クスッと笑えたひと時でも、病気から解き放たれることを願います。

Dr.サイくん。 作.マサコマサオ

心からのご寄付をありがとうございました

8月21日～9月20日まで

朝倉克己	現金	2,000
ソエタタダシ	現金	2,000
大木淳子	切手	2,826
菊池清香	切手	2,094
阿原一良	現金	10,000
匿名	切手	288
匿名	現金	3,000
読売新聞北陸支社	現金	1,435,000
青木繁文	現金	36,692
(社)日本青年会議所東北地区協議会	切手	19,888

（敬称略）

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
さくら銀行 新宿支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
全国骨髄バンク推進連絡協議会

岐阜
高山にてシンポジウム開催

去る七月八日、岐阜県高山市にあります高山短期大学の文化記念講堂にて、「一緒に考えてみませんか　生命を救うボランティア　～一九九五骨髄バンクシンポジウム in 高山」を開催しました。

当日は、朝から雨が降り続き、岐阜県飛騨地方に大雨洪水注意報が出るほどでしたが、「本当にお客さんは来てくれるのだろうか」との主催者側の心配をよそに、この町外れの会場まで、実に百名を越える方々においでいただくことができました。

さて、内容はといいますと、ビデオ上映（金色のクジラ）、講演（大谷貴子さんにおいでいただきました）、会場トークといったものです。お客さんの中には、お子さんが再生不良性貧血で、この講演会のためにわざわざ遠くから来たという方もいらっしゃいました。最後は会場全体による「明日を生きる」の合唱により幕を閉じました。

高山では一月から骨髄バンクの一次登録が保健所でできるようになり、七月終りまでに八人の方が登録されたそうです。市民の方々に骨髄バンクについて十分ご理解いただいて、一人でも多くの方にドナー登録をしてもらえたらと、しみじみ思いました。（川上）

奈良
猛暑の中のシンポジウム

八月二十日天理市民会館にて「第二回骨髄バンクシンポジウム」が開催されました。（天理青年会議所・関西協会・奈良の和の会共催・財団・全国協議会後援）

大谷貴子さんの司会によるトークショーに深尾真美さん（マラソンランナーユニバーシアード神戸大会金メダリスト・骨髄移植ドナー経験者）歌手の多田そうべいさん（再生不良性貧血で息子さんを亡くされた父親として）松田清重さん（ドナーが増えないことに何時も疑問を持っている一般の人として）伊藤良次さん（青年会議所の理事長）がパネラーとして参加して頂き、移植専門医の説明のない今までにない形態（ビデオでの説明のみ）として行いました。今回初めてドナーになったことを公表された、深尾さんの熱い思いが観客に伝わりました。

当日は三十六度を越す猛暑で参加者が少ないのではとの心配も、約四百五十名もお越しいただき盛況でした。

天理青年会議所は、骨髄バンクを昨年より社会開発事業として取組み、来年度も取り組んで頂けるというお言葉を次期理事長木村氏からお約束頂き、心強いサポーターとして関西協会も協力をしていきたいと思います。（山村）

「歌とおしゃべりのバラエティーショー」でのトーク

頭痛のタネ、肩の重荷、首がまわらない、不景気な顔、足の引っぱりあい、勇み足、骨肉の争い、明日胃カメラ、プレッシャー、取り越し苦労、空まわり、板バサミ、ムカムカ、イライラ、モヤモヤ、ムシャクシャ、ギクシャク、セクハラ、未練タラタラ、内気、エッチ、良心の呵責、永すぎた春、単身赴任、親子の断絶、理由なき反抗、五里霧中、四面楚歌、諸行無常、煩悩、出来心、退屈、理想と現実のギャップ、失意のどん底、お先まっ暗、不吉な予感、気のせい、ツキがない、楽しくないでお悩みの方に、フジテレビ。
フジテレビ